パケットトレーサで学ぶNW構築 (基礎編その2)

Firewallで必要な通信を許可しよう!



お品書き

- 1 Firewallの基礎
- (1) Firewallとは?
- (2) Firewallによるフィルタリング方式
- (3) ステートフルインスペクションの動作
- 2 Cisco ASAの概要
 - (1) CiscoASAとは?
 - (2) ASAにおけるインタフェース設定について
 - (3) ASAでの設定例 ア パケットフィルタリング方式の例 イ ステートフルインスペクション方式の例
- 3 Firewall設定と確認
 - (1) 構成条件
 - (2) 今回の設定要領 ア パケットフィルタリング方式 イ ステートフルインスペクション方式

お品書き

4 参考資料

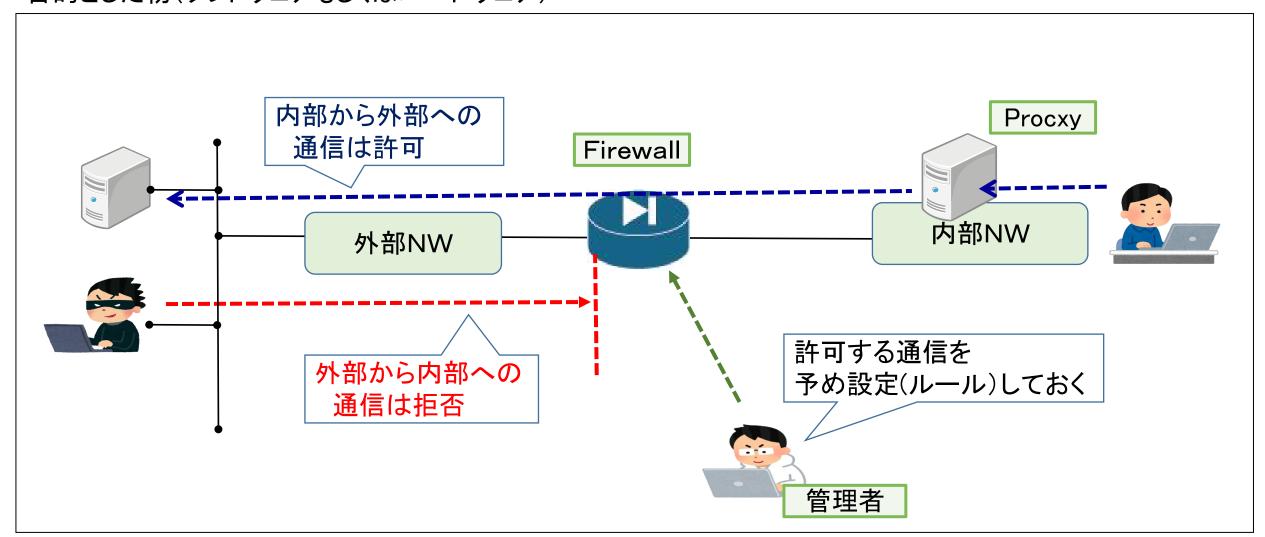
Firewall(ASA)での基本的な通信制御~その1 https://hetare-nw.net/archives/1426 Firewall(ASA)での基本的な通信制御~その2 https://hetare-nw.net/archives/1436 Firewall(ASA)での基本的な通信制御~その3 https://hetare-nw.net/archives/1445

今回使用するパケットトレーサファイルは以下の3つになります。

ASA-Base-drop.pkt (ASAのインタフェース特性を確認する) ASA-Packet-Filtering.pkt (ASAでのパケットフィルタリング設定済) ASA-Statefull-FW.pkt (ASAでのステートフルインスペクション設定済) Sougo-1-Mihon-FW.pkt (総合実習でのNWにASAを追加)

Firewallとは??

内部のコンピュータネットワークと外部との通信を、内部のコンピュータネットワークの安全を維持することを 目的とした物(ソフトウェアもしくはハードウェア)



(2) Firewallによるフィルタリング方式

- (2) ファイアウォールによるフィルタリング方式 フィルタリングの方式は以下の3つになります。
 - ① パケットフィルタリング型(ステートレス)パケットのヘッダ情報に含まれるIPアドレス、ポート番号に基づいてフィルタリングを行う
 - ② アプリケーションレベルゲートウェイ型 プロトコルごとにプロキシ(中継専用プログラム)をもち、パケットのアプリケーション層も含めた情報に基づいてフィルタリングを行う

③ ステートフルインスペクション型(ステートフル) セッション(通信の開始から終了まで管理する単位)の状態を管理して、 常にその情報に基づいてフィルタリングを行う。

今回は① パケットフィルタリング型 と ③ ステートフルインスペクション型 の実習を行います!!

現在、主流

(2) ファイアウォールによるフィルタリング方式

ステートフルインスペクション型FWの動作

フィルタリングルールとコネクションテーブル双方が連携して動作

【フィルタリングルール】: 管理者が設定

どんな通信を許可し、どんな通信を拒否するかを定義している設定です。

設定項目:

送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、プロトコル、送信元ポート番号、 通信制御 などがあります。

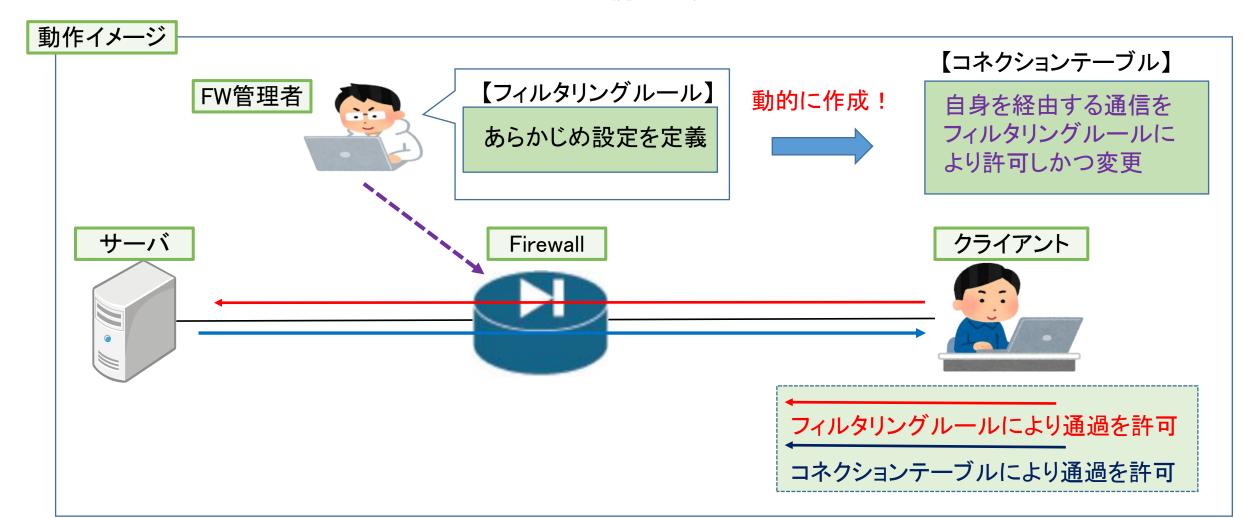
【コネクションテーブル】: 通過する通信により動的に作成 自身を経由するコネクションの情報を管理しているテーブル 管理項目:

> 送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、プロトコル、送信元IPポート番号、 宛先ポート番号、コネクションの状態、アイドルタイムアウト などがあります。

(2) ファイアウォールによるフィルタリング方式

ステートフルインスペクション型FWの動作

フィルタリングルールとコネクションテーブル双方が連携して動作

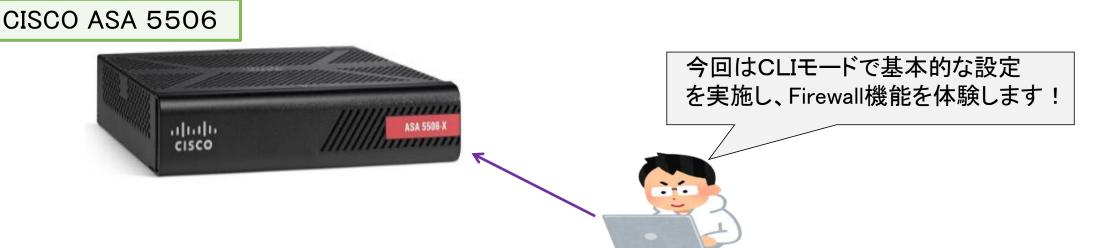


(1) Cisco ASAとは??

(1) Cisco ASAとは??

Cisco ASA シリーズは、豊富な実績を持つ複数のセキュリティテクノロジーを単一のプラットフォーム内に 統合した適応型セキュリティアプライアンスです

今回についてはパケットトレーサーで使用できる以下の装置を使用します。



パケットトレーサで使用できるASAの機能は残念ながら限定されています。。 が一般的なFirewallの機能を理解するのには十分です!

(2) ASAにおけるインタフェース設定について

(2) ASAにおけるインタフェース設定について

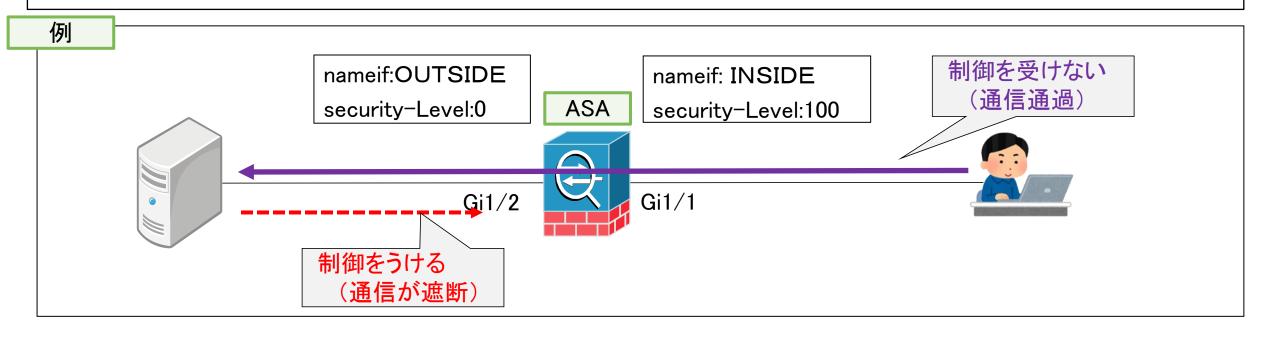
CISCOルータと大きく違うのは「nameif」および「security-level」が存在します。

「nameif」: インタフェースの名前(任意の名前を設定できます)

「security-level」: nameifに関連づく、セキュリティの強さです。

セキュリティレベルの高いnameifから低いnameifに通信するときは、基本的には素通りします。

セキュリティレベルの低いnameif から高いnameifに通信するときは、制御がかかります。



上記の例で説明すると
nameif:INSIDE(Gi1/1)→nameif:OUTSIDE(Gi1/2)に出ていく通信は制御無しで通りますがその戻り通信は
制御を受けることになります。

(2) ASAにおけるインタフェース設定について

インタフェース設定における通信の状態を確認しましょう!

次の図に示すNW構成を実施します (構成)

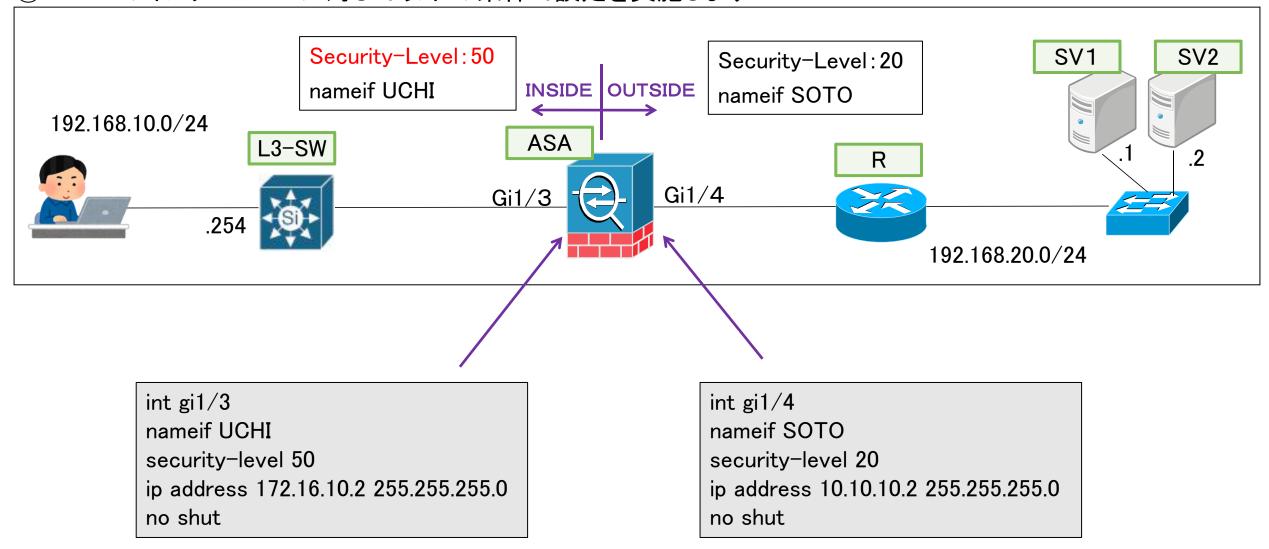
- ① ASAのインターフェスに対して以下の条件で設定を実施します
 - Gi1/3を「UCHI」、セキュリティレベル50
 - •Gi1/4を「SOTO」、セキュリティレベル20
- ② OSPFの設定を実施します。

(確認)

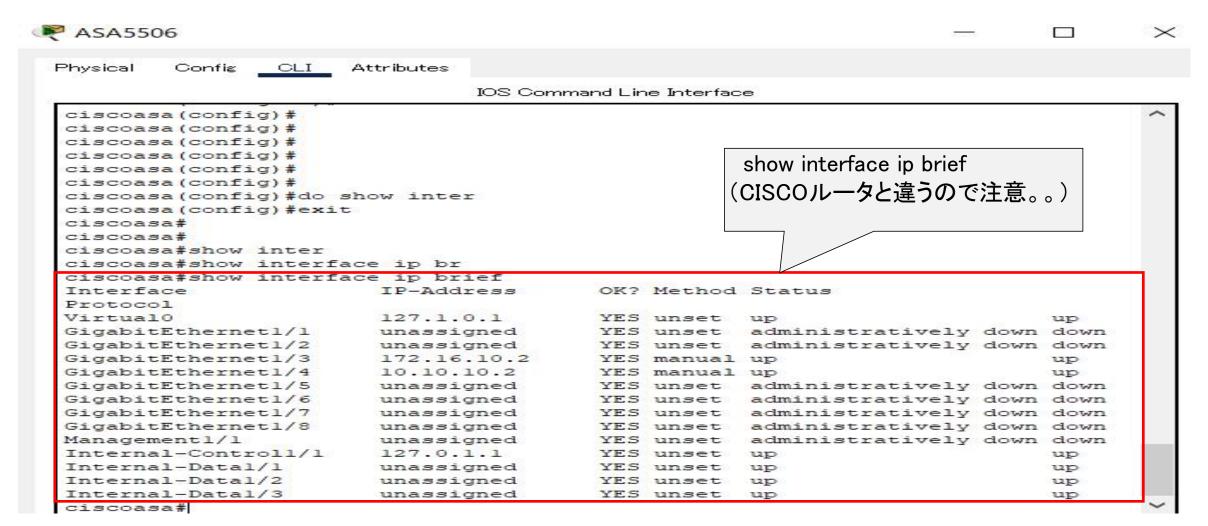
- ③ L3-SW⇔ASA R ⇔ ASA間で経路情報を交換できることを確認します
- ④ PC⇔サーバ間のPingを実施し、失敗することを確認してください。

サンプルパケットキャプチャファイルは"ASA-Base-Drop.pkt"になります

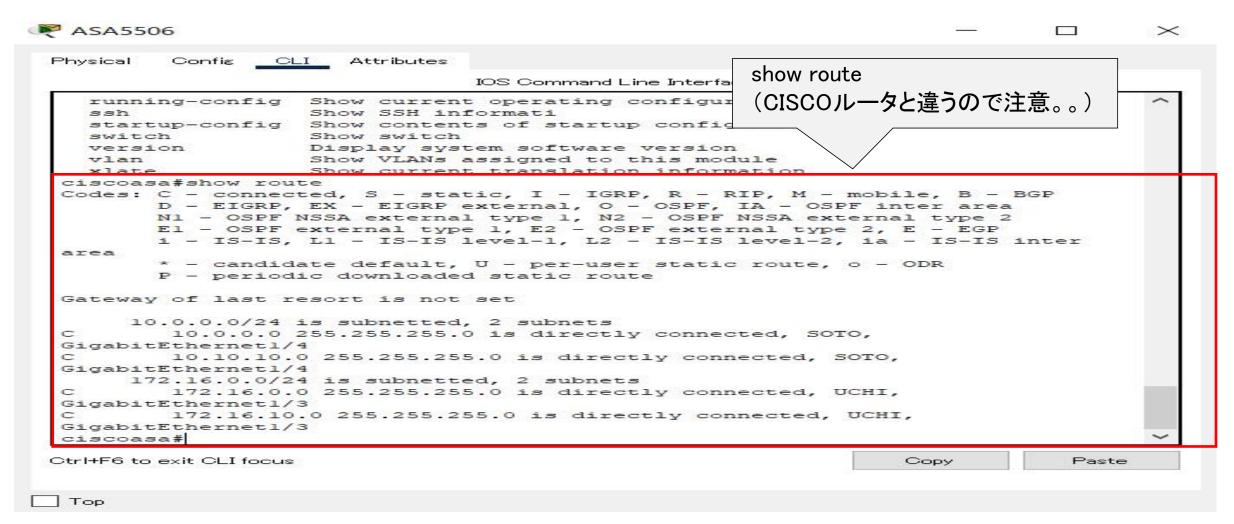
- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- ① ASAのインターフェスに対して以下の条件で設定を実施します



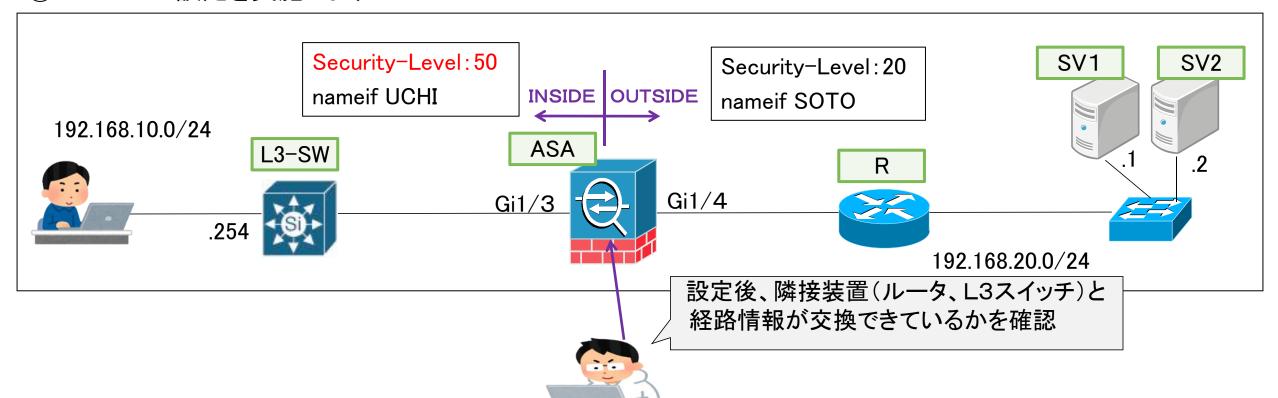
- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- ① ASAのインターフェスに対して以下の条件で設定を実施します
 - 〇設定後、ASAのインタフェースの情報を確認します。



- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- ① ASAのインターフェスに対して以下の条件で設定を実施します
 - 〇設定後、ASAの経路情報を確認します。



- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- ② OSPFの設定を実施します



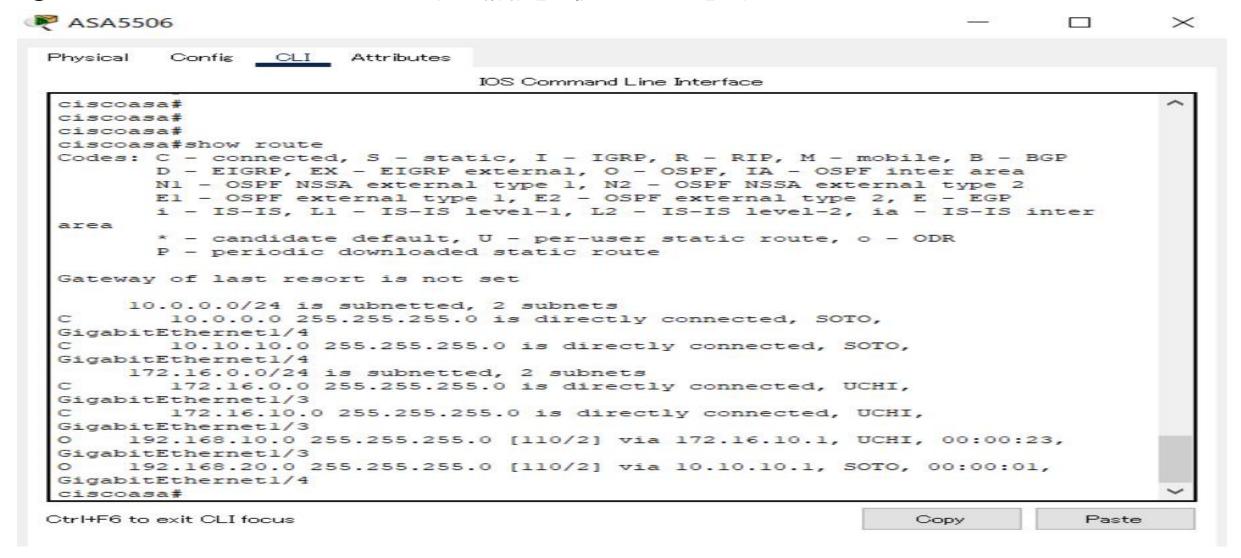
ASA5560#config t

ASA5560(config)#router ospf 1

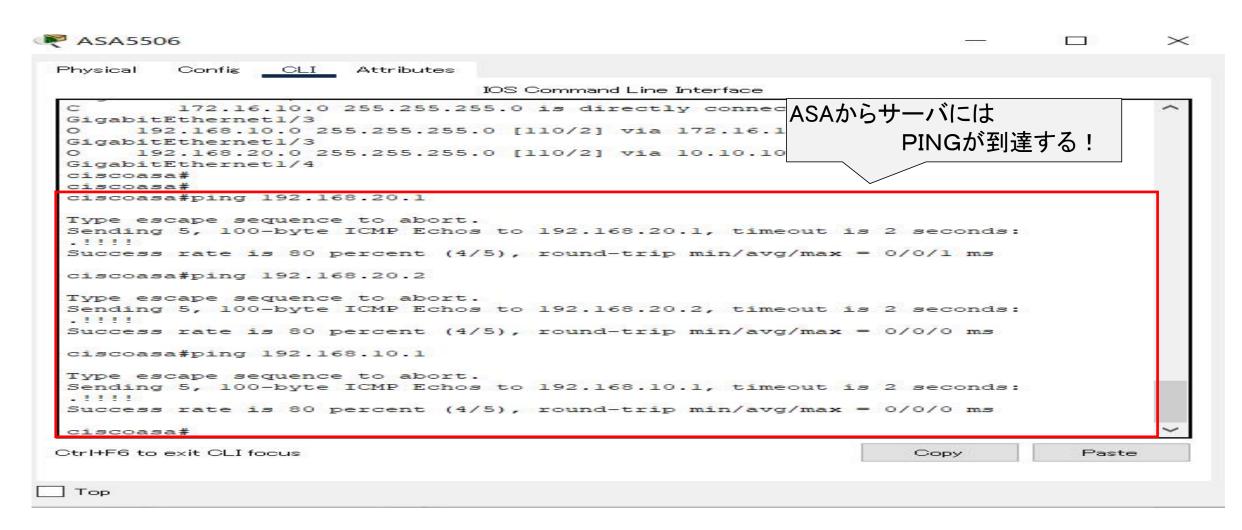
ASA5560(config-router)#network 172.16.10.0 255.255.255.0 area 0

ASA5560(config-router)network 10.10.10.0 255.255.255.0 area 0

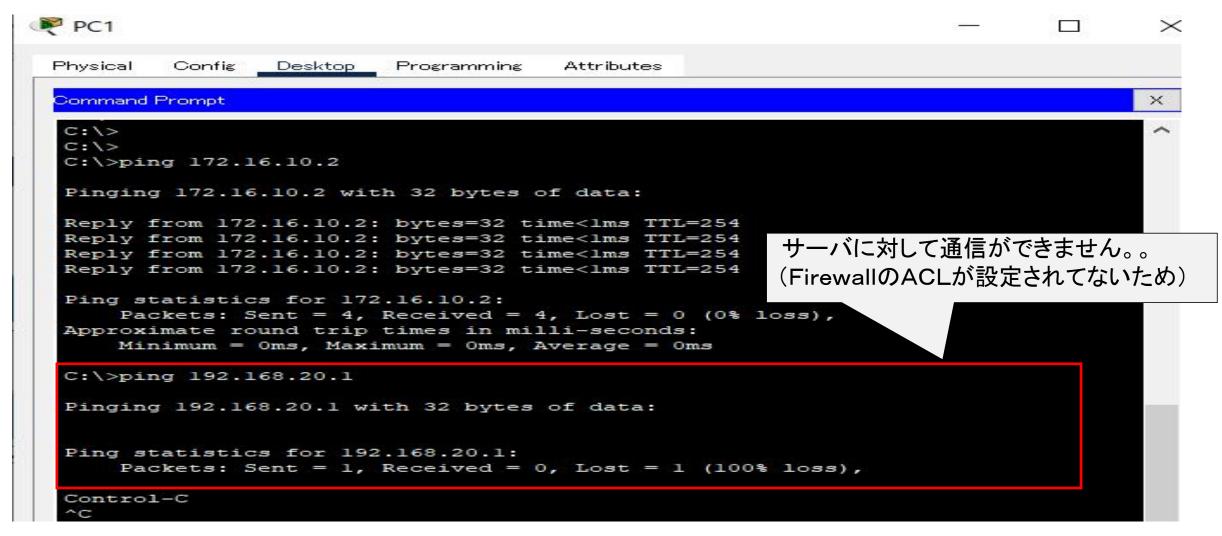
- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
 - ③ L3-SW⇔ASA R ⇔ ASA間で経路情報を交換できることを確認します



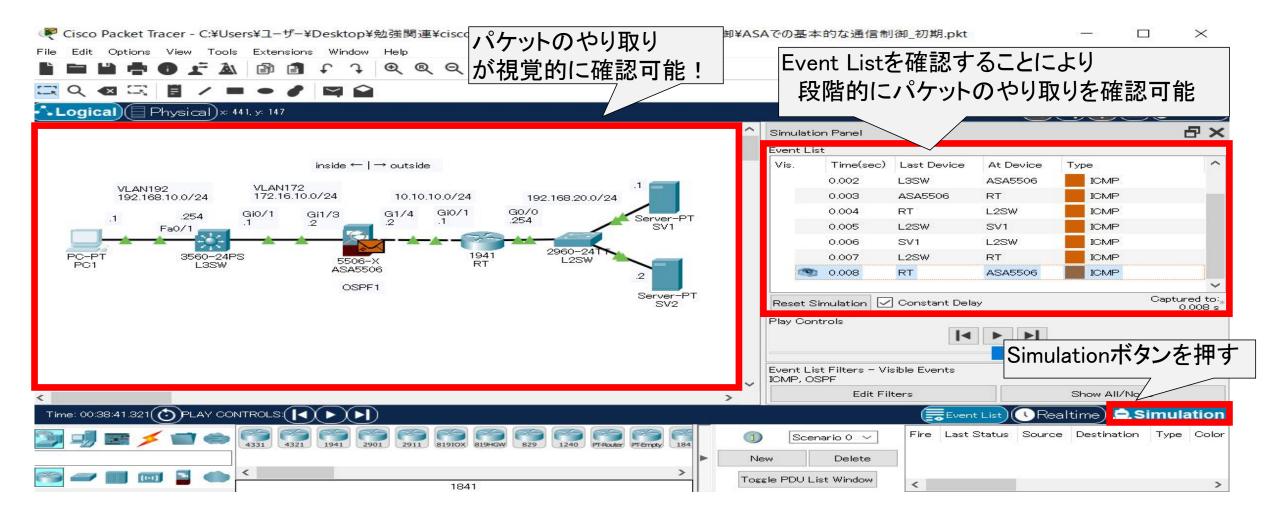
- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- ② OSPFの設定を実施します
 - PINGにより疎通確認を実施します



- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- ④ PC⇔サーバ間のPingを実施し、失敗することを確認してください。
 - PC1からのPING結果



- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- シュミレーションモードを使って通信がどこまで確立していたかを見てみましょう!
 - シュミレーションモードとは? Packet Tracerには、パケットレベルでのやり取りを視覚的に確認することができるモードです。



- (2) ASAにおけるインタフェース設定について
- シュミレーションモードを使って通信がどこまで確立していたかを見てみましょう!

シュミレーションモードによる確認要領 サンプルパケットキャプチャファイルは"ASA-Base-Drop.pkt"を起動します

右下の"シュミレーション"ボタンを押します

PC-PT PC1からサーバ 192.168.20.1に対してPINGを送信します。

Play Controlsの右ボタンをクリックしながら右上のEventlistの動作を確認します

サーバ 192.168.20.1からの応答パケットがASAで廃棄されているのを確認します

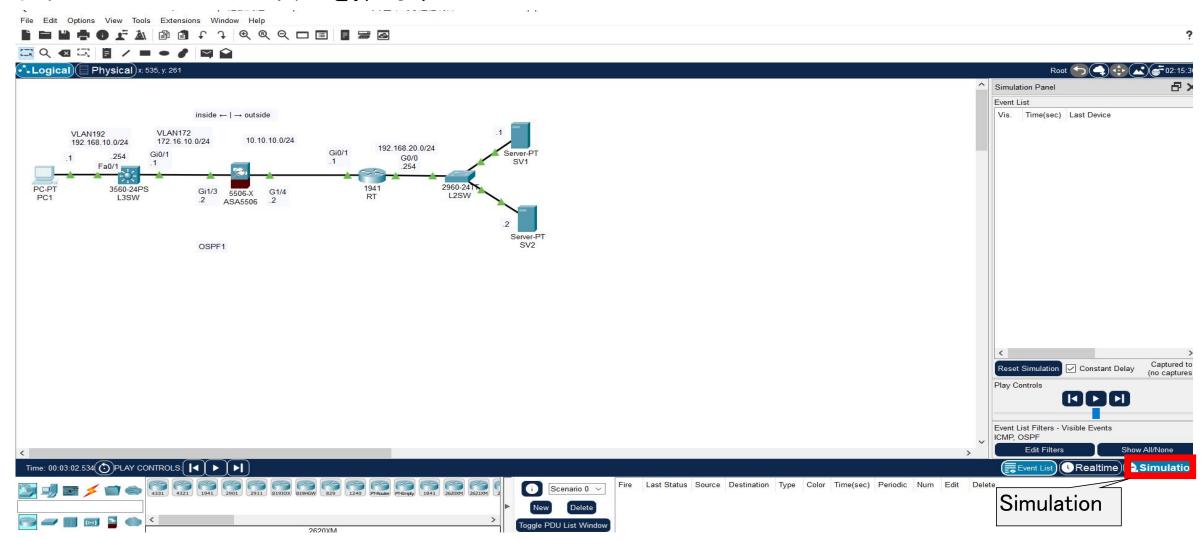
つまり

SecurityLevelが高いインタフェースから送信されたPINGはASAを通過しますが。。 SecuirtyLevelが低いインタフェースから入力されたPING応答パケットは通過できずASAで破棄されていることが確認できます。。

(2) ASAにおけるインタフェース設定について

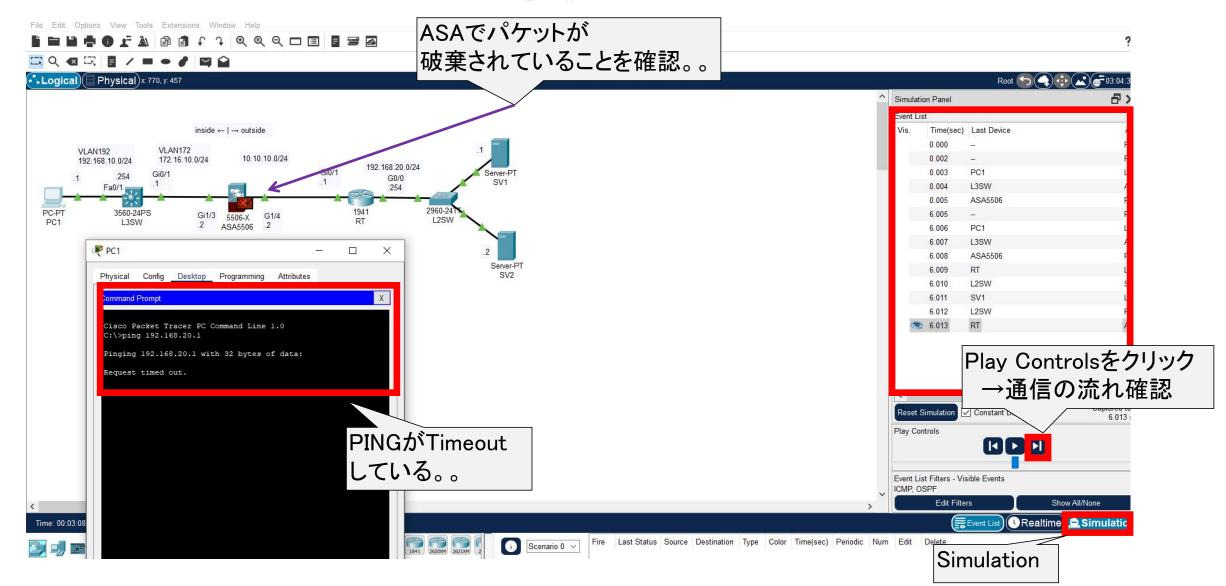
シュミレーションモードによる確認要領

右下の"シュミレーション"ボタンを押します

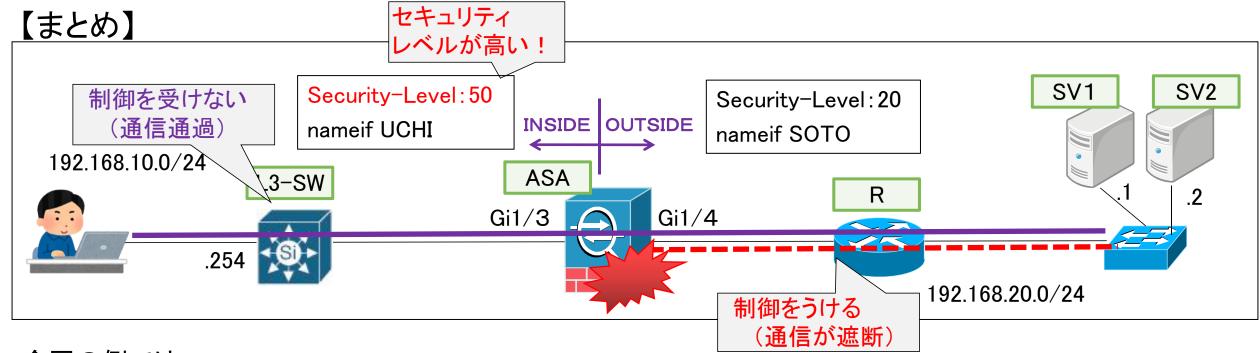


(2) ASAにおけるインタフェース設定について

PC-PT PC1からサーバ 192.168.20.1に対してPINGを送信します。



(2) ASAにおけるインタフェース設定について



今回の例では

nameif:INSIDE(Gi1/3)→nameif:OUTSIDE(Gi1/4)に出ていく通信は制御無しで通りますがその戻り通信は制御を受けることになります。

そのため、次ページで紹介する2つの方法のどちらかを設定する必要があります! 1 パケットフィルタリング方式 2 ステートフルインスペクション方式

(3) ASAでの設定例

パケットフィルタリング方式

ASAでの設定例 (3)

パケットフィルタリング方式

【実習内容】

- 設定したFirewallに対して以下のフィルタリング設定を実施
 - ア フィルタリングするためのaccess-listを設定します
 - PC1からSV1に対してはHTTPのみ許可
 - PC1からSV2に対してはICMPのみ許可
 - OSPF通信を許可
 - イ アで作成したaccess-listをインタフェースに適用します(適用インタフェース "SOTO")

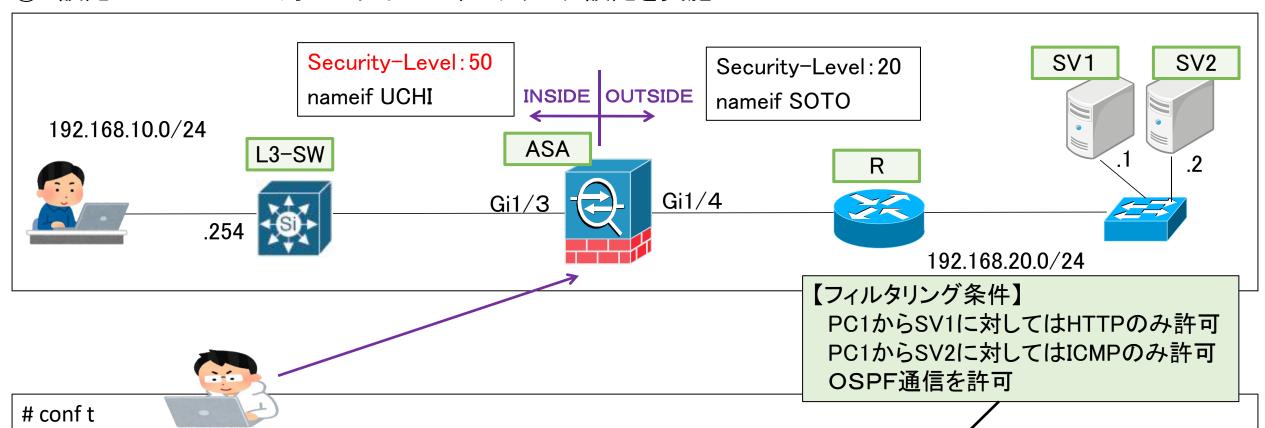
② PC1 ⇒ SV1に対してHTTP通信が可能か確認します PC1 ⇒ SV2に対してICMP通信が可能かを確認します。

(ASAでのパケットフィルタリング設定済) ASA-Packet-Filtering.pkt

(3) ASAでの設定例

パケットフィルタリング方式

① 設定したFirewallに対して以下のフィルタリング設定を実施



(config)# access-list SOTO-to-UCHI extended permit tcp host 192.168.20.1 host 192.168.10.1 (config)# access-list SOTO-to-UCHI extended permit icmp host 192.168.20.2 host 192.168.10.1 (config)# access-list SOTO-to-UCHI extended permit ip host 10.10.10.1 host 10.10.10.2 (config)# access-list SOTO-to-UCHI extended permit ip host 10.10.10.1 host 224.0.0.5

(config)#access-group SOTO-to-UCHI in interface SOTO

/イ) アを インタフェース "SOTO"に適用

(3) ASAでの設定例

パケットフィルタリング方式

② PC1 ⇒ SV1に対してHTTP通信が可能か確認します PC1 ⇒ SV2に対してICMP通信が可能かを確認します。



PC⇒SV2~PING

```
C:\>ping 192.168.20.2
Pinging 192.168.20.2 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.20.2: bytes=32 time<1ms TTL=125
Reply from 192.168.20.2: bytes=32 time<1ms TTL=125
Reply from 192.168.20.2: bytes=32 time<lms TTL=125
Reply from 192.168.20.2: bytes=32 time<lms TTL=125
Ping statistics for 192.168.20.2:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
   Minimum = Oms, Maximum = Oms, Average = Oms
C:\>
```

(3) ASAでの設定例

ステートフルインスペクション例

(3) ASAでの設定例

ステートフルインスペクション方式

【実習内容】

① ~その2~で設定したACL設定を削除します

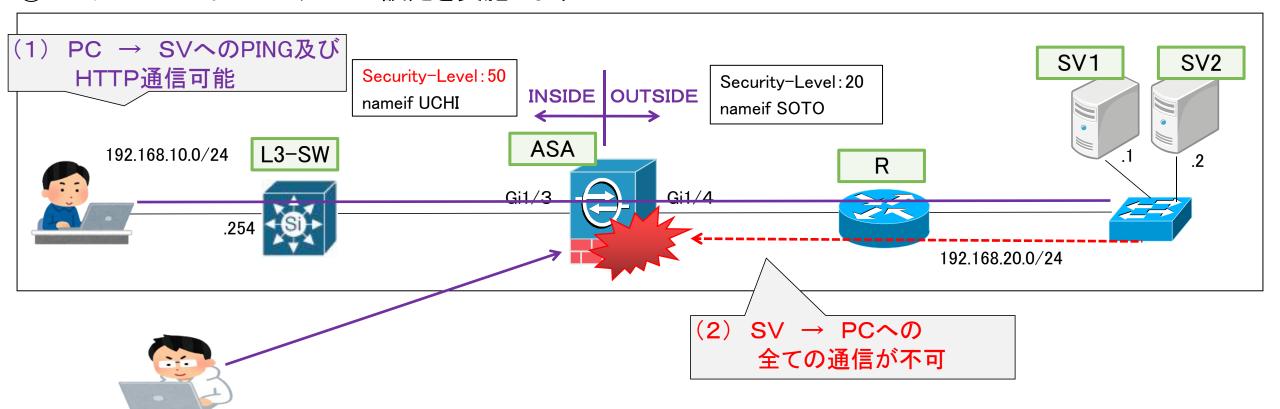
- ② ステートフルインスペクション設定を実施します
- <1> クラスマップでインスペクションする プロトコルを指定
- <2> クラスマップをポリシーマップに適用し サービスポリシーに適用

③ 設定後、通信確認を実施しますア PC → SV1、SV2にICMP、SV1にHTTP通信ができることを確認イ SV1, 2 → PCにICMP通信ができないことを確認

(3) ASAでの設定例

ステートフルインスペクション方式

② ステートフルインスペクション設定を実施します



- ② ステートフルインスペクション設定を実施します
- <1> クラスマップでインスペクションする プロトコルを指定
- <2> クラスマップをポリシーマップに適用し サービスポリシーに適用

- (3) ASAでの設定例
- ② ステートフルインスペクション設定を実施します

ステートフルインスペクション方式

- <1> クラスマップでインスペクションする プロトコルを指定
- <2> クラスマップをポリシーマップに適用し サービスポリシーに適用



```
# conf t
(config)# class-map CMAP
                                   / CMAPというクラスマップを設定
(config-cmap)# match default-inspection-traffic
(config-cmap)# exit
(config)# policy-map PMAP
                                  / PMAPというポリシーマップを設定
(config-pmap)# class CMAP
                                   / クラスマップCMAPと紐付けする
(config-pmap-c)# inspect icmp
                                  / ICMPを許可
(config-pmap-c)# inspect http
                                  / HTTPを許可
(config-pmap-c)# exit
(config)#
(config)# service-policy PMAP global
                                    /PMAPを適用
(config)# end
```

(3) ASAでの設定例

ステートフルインスペクション方式

② ステートフルインスペクション設定を実施します

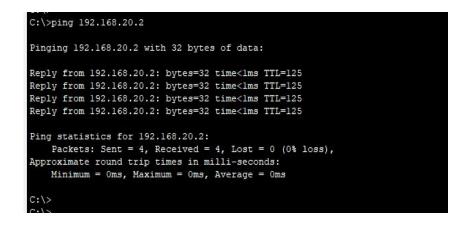
```
ciscoasa#configure terminal
ciscoasa(config)#class-map CMAP
ciscoasa(config-cmap)#match default-inspection-traffic
ciscoasa(config-cmap)#exit
ciscoasa(config)#policy-map PMAP
ciscoasa(config-pmap)#class CMAP
ciscoasa(config-pmap-c)#inspect icmp
ciscoasa(config-pmap-c)#inspect http
ciscoasa(config-pmap-c)#exit
ciscoasa(config)#
ciscoasa(config)#service-policy PMAP global
ciscoasa(config)#
ciscoasa(config)#exit
ciscoasa#
ciscoasa#copy running-config startup-config
Source filename [running-config]?
Cryptochecksum: 11e63ab2 4c1533c5 39526ecd 32d13356
```

1363 bytes copied in 2.786 secs (489 bytes/sec)

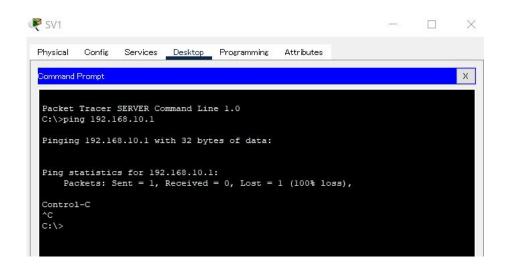
(3) ASAでの設定例

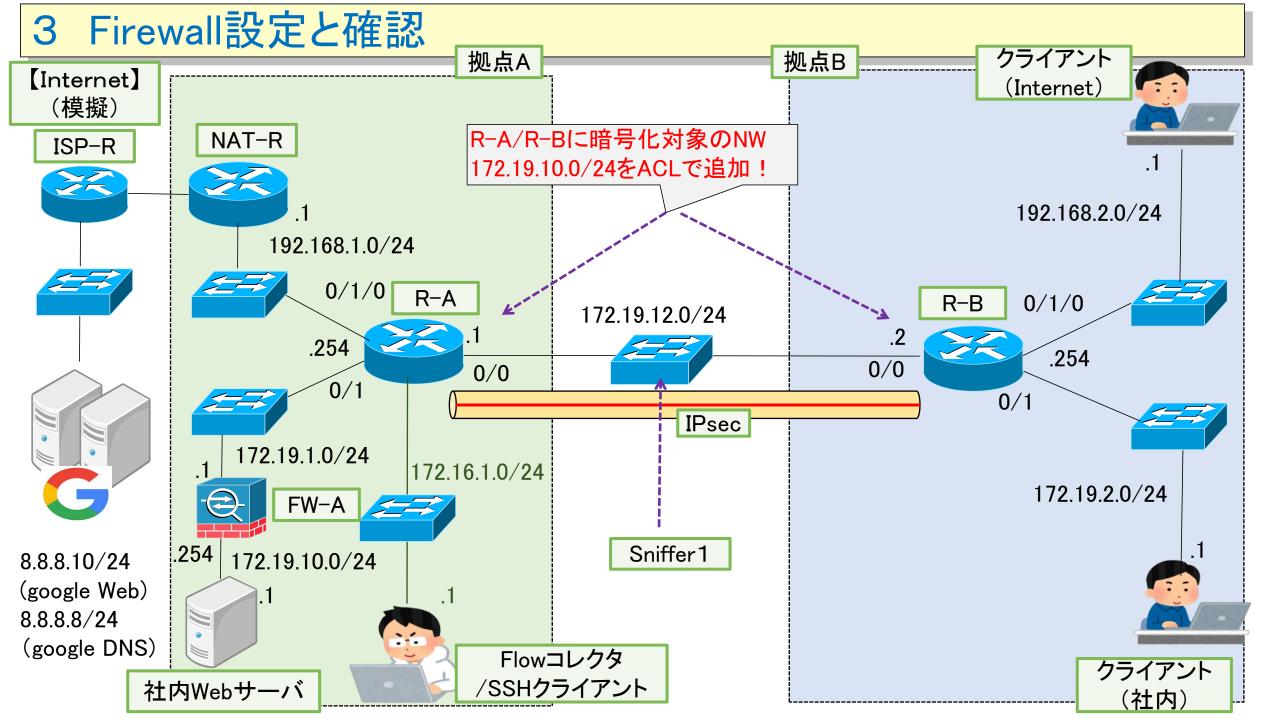
ステートフルインスペクション方式

- ③ 設定後、通信確認を実施します
 - ア PC → SV1、SV2にICMP、SV1にHTTP通信ができることを確認
 - イ SV1, 2 → PCにICMP通信ができないことを確認

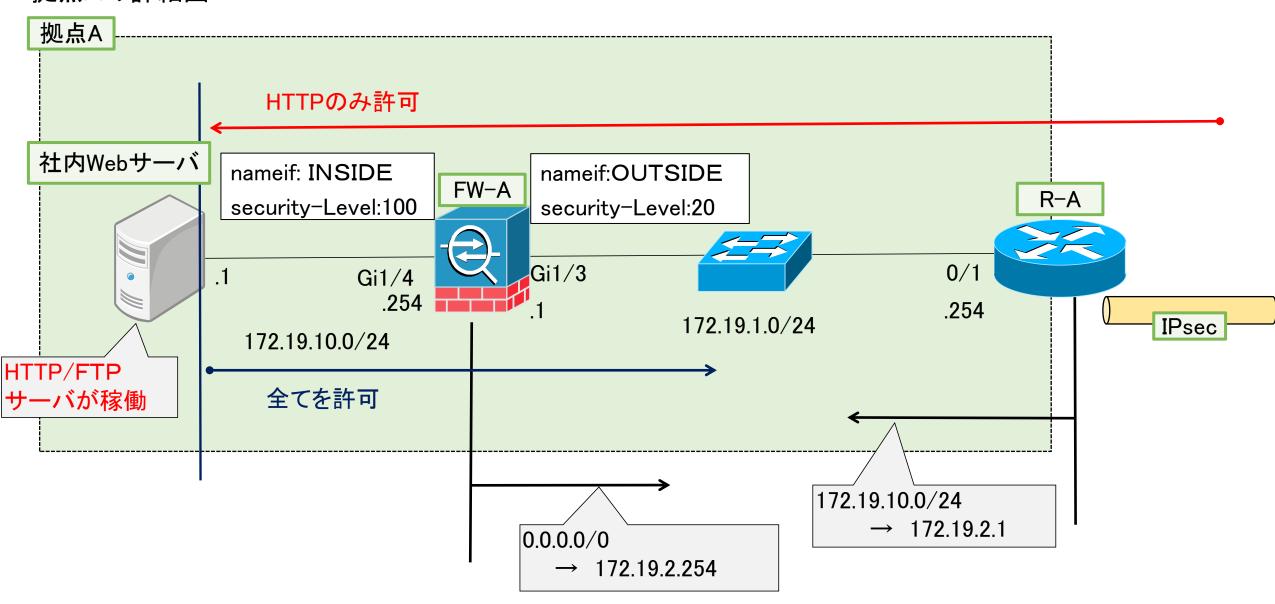








拠点Aの詳細図



以下の要領で設定します

```
(事前確認)
拠点AにFirewall(ASA5506)を接続します。
拠点Aのルータ向けにデフォルトルートを設定
インタフェースのセキュリティレベル
 nameif: INSIDE security-Level:100 nameif:OUTSIDE security-Level:20
 全ての通信を通過させるためのAccess-Listを設定
拠点Bの端末から拠点AのサーバにPING/HTTP/FTPアクセスできるかを確認します
(セキュリティ設定)
 インタフェースのセキュリティレベル
 nameif: INSIDE security-Level:100
                             nameif:OUTSIDE security-Level:20
 Access-Listを変更して以下の条件で設定変更
  OUTSIDE→INSIDE: HTTPのみ許可 OUTSIDE→INSIDE: 全ての通信を許可 → ②
拠点Bの端末から拠点AのサーバにHTTPアクセスできるかを確認します
拠点Bの端末から拠点AのサーバにFTPアクセスできないことを確認します
```

Sougo-1-Mihon-FW.pkt (総合実習でのNWにASAを追加)

ASAに適用するAccess-List

- ① 双方向の通信を許可
 ciscoasa(config)#access-list OUTSIDE-to-INSIDE extended permit ip any any ciscoasa(config)#access-group OUTSIDE-to-INSIDE in interface OUTSIDE ciscoasa(config)# ciscoasa(config)# ciscoasa(config)#exit ciscoasa#
- ② OUTSIDE→INSIDE:HTTPのみ許可 OUTSIDE→INSIDE:全ての通信を許可 ciscoasa(config)#access-list OUTSIDE-to-INSIDE extended permit ip any any ciscoasa(config)#access-group OUTSIDE-to-INSIDE in interface OUTSIDE ciscoasa(config)# ciscoasa(config)#exit ciscoasa#

Sougo-1-Mihon-FW.pkt (総合実習でのNWにASAを追加)は "②" のaccess-listを適用しています!

①のAccess-Listに変更して動作を確認してみてください。

ASAに適用するAccess-List

② OUTSIDE→INSIDE: HTTPのみ許可 OUTSIDE→INSIDE: 全ての通信を許可

```
C:\>ping 172.19.10.1
Pinging 172.19.10.1 with 32 bytes of data:
Ping statistics for 172.19.10.1:
    Packets: Sent = 1, Received = 0, Lost = 1 (100% loss),
Control-C
C:\> ftp 172.19.10.1
Trying to connect...172.19.10.1
C:\>
```

全許可していた場合に 通信できていた PING/FTPはASAでブロックされます!

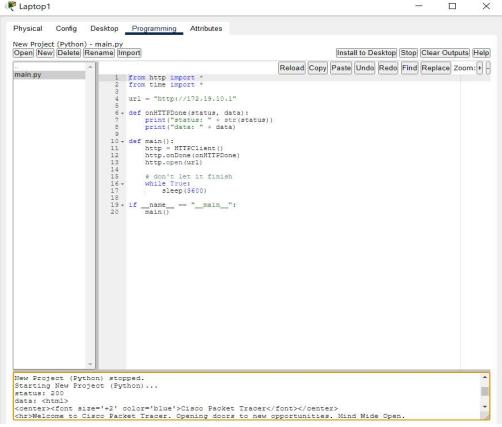
ASAに適用するAccess-List

OUTSIDE→INSIDE: HTTPのみ許可

OUTSIDE→INSIDE:全ての通信を許可

PythonによるWebアクセス

Laptop1



WebブラウザによるWebアクセス

